

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

③キャリアパス形成を支援するための体制整備や、社会的・職業的自立に向けた情報提供

《理工農系》

●東京医科歯科大学生命情報科学教育部バイオ情報学専攻 「国際産学リネージュプログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

キャリアパス形成の支援体制としては、大学院生への相談窓口を常時開設することとした。特に希望する大学院生にはプロフェッショナルなコーチを招いたキャリアコーチングを実施した。また、企業のエグゼクティブを招聘したセミナーの企画実施を行った。概ねどの試みも大学院生には好評であったが、コーチングに関しては大学院生から大変好評であったにもかかわらず、学内においてその継続的なコーチングシステムを準備するには至らなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

アンケートによるとキャリアコーチングの効果が高く非常に好評であったが、コーチとコーチを受ける学生との間の秘守性などがあり、具体的な成果を計測する上で課題があった。また、常に外部のコーチに依存する形になるために、教員のキャリア相談力の短期間での向上が課題であった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

コーチングが、コーチの技術に大きく依存し、コーチとコーチを受ける学生の2者で実施されることから、教員を交えたコーチングができず、教員のキャリア相談力向上が課題であった。そこで、コーチによるコーチング技術の講義・演習を実施することとした。コーチング技術を学ぶ対象として、大学院生、卒業生、教員が参加した。アンケートによると、コーチング研修は、大学院生、卒業生、教員のそれぞれに非常に好評であり、今後の継続的な講義・演習の希望が出された。